

天災から自分の命を守る

2021 年になり東日本大震災の発生から 10 年が経とうとしています。移住や仮設住宅の撤去により安全な場所へ生活はできても、失ったものはとても大きかった出来事です。まず何よりも大切な命を奪った災害に対して私たちは記憶も気持ちも風化させてはいけません。近畿圏に住む私たちもいつか起こるかもしれない南海トラフ地震の被害に対して、いま一度考え直すことが大切です。高校 1 年生の授業で南海トラフ地震が実際に起きた際、気象庁が発表する臨時情報がどんなものか、自治体間の対口支援について学びました。以下の文章は参加した生徒の感想です。

もし(追加で)臨時情報が出てくるかもわからないときに、避難は大事だと思ったけど、いざ自分がその状況になったら、家のほうが良いし避難しないだろうなと思いました。情報が不確実だと不安だと思うからです。50 年以内には必ず来るといわれる南海トラフだけど、京都には津波が来なくても火災などの対策を取っておきたいです。(H さん)



南海トラフの被害が大きいとされる地域に住んでいるのにも関わらず、臨時情報という仕組みを初めて知りました。地震はいつやってくるのかギリギリまでわからないので、この制度は市民の不安を募らせるものだと思います。考え直すのが難しい制度ですが、できるだけ事前に避難する人が増えるように気象庁は臨時情報の信憑性を今のうちに高めるのが重要だと思います。(M・M さん)

自然災害は避けられないので、もしもの時に備えられるように考えたいです。地震が起きてからわずか2分ほどですぐ津波が来ると聞いてとても怖いと思いました。もし臨時情報が出されたら、できるだけ避難しようと私は思いました。水とか食べ物も事前に用意しておいたほうが良いなとも思いました。またどうやって避難するかなども家族と話そうと思いました。(N さん)

まだ自分が生きていた中で阪神や東日本のような大地震を経験したことがないから想像しにくいけど、シミュレーションで被害が広範囲に及ぶ様子を見て、京都も震度 6 強が来るんだと少し実感しました。臨時情報など実際に起こったときの正しい行動を考えておかないといけないと思いました。(I さん)

いつ起こるかかわからない地震の被害を抑えるために、近隣の人たちだけでなく自治体と住民、各都道府県同士の繋がりが必要だと思います。臨時情報が出てからとか何か災害が起きてからだと遅いので、日頃から対応を考えたり家族と話し合っておきたいと思います。(O・H さん)

